

加茂里山通信

平成25年夏号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者 柳原義久
編集長 征矢貴之

芸術祭が始まる

来月3月21日から始まる「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス」の概要発表会が東京で開催されたのが5月29日でした。そして7月3日には加茂公民館で地元説明会が行われました。佐久間市長の挨拶の後、今回の芸術祭の総指揮ロネーサー北川フミヨリ、どういった考え方で、どんな目的を持ってこの芸術祭を行っていくのかというこの説明が行われました。その大まかな内容は以下のよう

出逢い

市原市は「21世紀のまち」であり、また「まち」で、特にこれといった特徴のある市ではありません。そのあたりまの市も農村部にあつては少子高齢化・過疎化の日本全体の農村部が抱える問題を持っています。しかしこの地域は、地域としての魅力も実は多く持っています。里山が残る、ローカルな小漁場が走り、地域のコミュニティがしっかりと残っています。日本の原風景と呼べるものが色濃く残っている地域でもあります。この市原にある、忘れられた日本、忘れられた日本人といふことに思ふものを磨き出すこと、これをアート、建築、デザインの力でやってみよう、ということが出発点です。

これはまた、過疎や少子高齢化という日本の地方都市のどこでも抱えている課題を、市原市で少しづつ足から解決していきながらやってみよう、そこに多くの人を呼び込むことで、希望の市として発展出来るのではないかと思ふます。いま地域で起きているいろいろな活性化の動きが運動してやっていたらと思ふます。あたりまの市が持っている課題を解決しながらの芸術祭の展開が、実は一番

いちはらアート×ミックス

目的は何が

いちはらアート×ミックスではアート・建築・デザイン・その他の文化的なものを、全体的にやるわけですが、その目的は、ありまの市原市にあって、あるいは市原に住んでいる人、とりわけお年寄りが希望を持ってやってみようというところ、お年寄りの笑顔が見られる場所を作ること、そういうことを目指します。そしてそれは私たちの将来の展望は、と見ています。なぜなら、お年寄りが幸せだと感じられることが、地域にとって本当に幸せなことだと思ふからです。

どうやって

先述したように、この地域は地域の魅力と、ある種な資源に恵まれています。この資源を出来るだけ活かして、そこに新しい価値を加えていく、というのをやってみようと思ふます。アート×ミックスの中核となるのは40歳前後のアーティストです。次の時代を担う若手の作家達に、時々の継続して市原に関わりつつ、ものづくりを、また新しいソフトづくりを地域の人たちに委ねていこうと思ふます。私は生活・文化・芸術がアートであると考えています。今回は、食・農、それに「ハイキング」をキーワードにしたいと思ふます。豊かな食料、首都圏から時間の距離、小漁場、そこに里山があり、養老溪谷がある。これらの地域の資源を磨き、首都圏のアートとして、市原に行ったら楽しい、気持ち

サポーター募集

すでに7月1日からアート×ミックスをボランティアで手伝うサポーターの募集が始まっています。サポーターは市内、市外、国籍、年齢を問わず、又個人、団体も問いません。サポーター登録をした後、自分が参加できる活動を見つけたら活動登録をして参加する事になります。無理をすることなく、自分の活動できる範囲で参加するというのが、先に加茂・南総の里山の会でも話題になったことですが、自分たちは何をしたいのか、どうやって手伝いたいのか、と考えている地域の活動団体も多いと思ふます。会場となる加茂・南総の町会や各種団体、里山活動団体などは7月下旬から8月にかけて、直接、説明をする機会を設けたいと考えています。地域の活動団体が主体となってサポーターしてもらいたいと思ふています。無理をすれば長く続かないので、無理をしない範囲で参加してもらいたいということです。



活動内容は大きく分けて3つあります。1つは来年度の31日までの、通年の主に事務的な活動。2つめは会場の活動として、作品制作補助やゴミ拾い・菜の花の種蒔き・草刈りなどの会場整備の活動。3つめは来

場での受付・案内などの会場の活動です。この地域にこれから若き芸術家達、それにサポーターがたくさん来るようになります。国籍も年齢も問わないのですから、どんな人が来るのか想像もつきませんが、賑やかになることは確かです。動きはもうすでに始まっています。来年度5月末までの長いフェスティバルも考えられます。ただ眺めているよりも、実際に飛び込んで参加した方がずっと楽しいと思ふます。いろいろな人と接する機会が向うからやってくるようなものです。参加して楽しむ、これはアート×ミックスの会場内に住む私たちのキーワードではないかと思ふます。

市原湖畔美術館オープン

約2年の改修を経て、市原市水戸彫刻の丘、名を冠する市原湖畔美術館とあわせて8月3日にオープンします。この美術館が目指すところは3つあります。まずアート×ミックスの中心的な施設としての役割を担い、アートを通じた地域づくりの中核施設として地域の中の美術館に。次に、首都圏からのアクセスの良さ、市原湖畔という絶好のロケーション



レストランは藤原揚水機の近くに

ンを活かして、アートと食と遊びも満足できる魅力あふれる美術館に。さらに美術館に来る体験できることは何かという点を見つめ直し、独創性に富んだ企画を展開し、新しい感覚を味わうことの出来る美術館。ともかく、本格的な美術館が市原にオープンする事になります。佐倉の川村美術館、千葉市のホキ美術館などその収蔵作品や運営方法、運営からでも人がやってくるような美術館となつてほしいと思ふます。ある人から川村美術館は大ケ台にできる予定だった聞きました。そうであったら、市原から人がやってくると思ふます。湖畔美術館は可能性を秘めた美術館です。開館的な美術館にしてほしいと思ふます。ちなみに併設されるそれぞ湖畔のイタリアンレストランは、同レストランのおおむね、試食した者が「さすが」と絶賛していました。これも楽しみです。(征矢山通信員)

第8分団優勝!

曇天の5月26日、昭和村駐車で行われた加茂町連合大会では、杉田町連合の急進を受けて、参加団員は激戦を付けての大会となりました。成績は次の通りです。
優勝 第8分団 戸崎・柳川・葦野・石塚 分団長 斎藤愛主
準優勝 第3分団 久保・外部田・駒込・山口 分団長 杉田貴公
第3位 第5分団 京・新井 分団長 太田敏正
優秀操作員 指導者 吉川和明(8分団) 1番員 中澤辰則(8分団) 2番員 山本幸春(8分団) 3番員 富原貴宏(8分団)
第8分団は平成14年以降、11年ぶりの優勝を飾り、常勝軍団の復活を果たしました。また優勝を優勝を逃した3分団は上位の常連として安定した成績を残しています。注目すべきは3位に食い込んだ5分団です。市山地区代表として、団員の確保に苦しみながらも訓練の成果を十分に発揮した好成績に、表彰式では団員達の笑顔がはじけていました。昨年と今年と同じ地区で優勝経験もある4分団が大会参加を見合わせているだけに、今回の好成績は来年度の4分団5分団の揃い踏みでの上位進出に期待を抱かせました。
東北大震災を経て、地域防災の要として注目される消防団ですが、最近の団員不足は深刻になってきています。分団長経験者が退団せずに団を維持することも多くなり、訓練期間中も少ない団員だけで、準備、ホースまき、片付けと重労働があります。
分団統合を経て、今の消防団の形になって30年近くになります。統合当初はこの分団も20名を超える団員で構成されていたものが、今では半減状態。優勝した8分団は団員数10名とのこと。そんななかでも訓練の姿を見れば、やはり頼もしくなつてきます。頑張れ消防団
なお、6月16日に雨天の中、防災センターで行われた市原市大会は、南総支部が優勝、準優勝は五井支部となり、加茂支部は3位入賞の成績でした。(天龍寺市山通信員)



地域防災の要です

西東駒ヶ山通信員

日時 8月10日(土)
18:00~20:30
場所 社会福祉法人 昭和村(万田野ノ3番地)
主催 社会福祉法人 昭和村
協賛 万田野友会

実にぜいたくな品々

腦卒中、ストローク位だった長野県が、食卓見直し「の草の根」運動を開始して、「平成22年度都道府県別にみた平均寿命」が男女とも1位になりました！この長野県では「平成22年度都道府県別の野菜摂取量」でも日本1になったそうです。健康寿命をのほすために始めた「がんばらない食生活改善運動」のポイントを、紹介します。

- ① 減塩にする（1日10g未満をめざし、減塩に心がけましょう）
- ② 野菜をたくさん食べる（野菜には食物繊維、ビタミン、ミネラル。そしてフィトケミカルという老化予防の成分が豊富）

写真はお受け用です



まさに日本の田舎の味

これがホタルの乱舞

所にホタルが飛ぶのかを明るい時間に知つて頂きたい。

古敷谷川の流域には、ゲンジホタル・ヘイケホタルが時期をずらして飛んでいる。ゲンジホタルは、餌となるカワニナがいる流れのある小川など。ヘイケホタルは、養魚であるタニシ等がいる田んぼなどにいる。ゲンジホタルは、力強く光輝き写真にも蒼蒼と映るとが出来るが、ヘイケホタルは弱々しく光り間隔も短い。

古敷谷でも容易に見ることが出来るポイントが多くあるが、最近では竹や雑草等で隠れてしまうようになつてしまつた。

古敷谷の里山で遊歩道を築きみにしていた富山小学校の児童も、今年から加茂菜園に通学し他の地区の子供達との交流を深めている。子供たちはずっと小学校の授業で行われていた郊外学習が里山や古敷谷川で行われていた事を覚えていられる。他の地域の子供達といつしよに楽しみたいと思つてゐるかもしれない。

里山の会のメンバーは、里山等を維持していくには若返りが必要だと常々話している。今後の課題は、地域の活性化を図るように、活動メンバーを募つて行くことだ。

ロコモで広がつている古敷谷のホタル達をどう育てるのかも考えなければならぬ。

園芸道の開通に伴つて、道路状況が大きく変わったが、どんな変化を古敷谷にもたらすだろう。

（近代里山通信員）

URL <http://www.sugita-group.com/>



開館時間 10:00~17:00



www.honka.com Today's homes. Naturally.

ホンカ産経 太陽工業株式会社 ログホーム事業部
TEL0436-95-5641 FAX0436-95-5642 <http://www.honka-bousou.com>

